

受講対象者と申込方法、その他（必ずご確認ください）

1 研修の日程 ※下記の他、県内で先駆的な支援を行っている事業所の見学を予定（半日程度）

	日程	内容	講師	会場
【第1回】	8月20日（火） 13:30～17:00	■講義「専門研修第1回」 ■講義「Slackについて（ICTの活用方法）」	井上雅彦 氏 中谷啓太 氏	伯耆しあわせの郷 （大会議室）
【第2回】	9月26日（木） 13:30～17:00	■講義「専門研修第2回」 ■グループ演習	井上雅彦 氏	伯耆しあわせの郷 （大研修室）
【第3回】	10月8日（火） 13:30～17:00	■講義「専門研修第3回」 ■グループ演習	井上雅彦 氏	伯耆しあわせの郷 （大会議室）
【第4回】	10月29日（火） 13:30～17:00	■講義「専門研修第4回」 ■グループ演習	井上雅彦 氏	伯耆しあわせの郷 （大研修室）
【第5回】	11月19日（火） 13:30～17:00	■講義「専門研修第5回」 ■グループ演習	井上雅彦 氏	伯耆しあわせの郷 （大会議室）
【第6回】	12月12日（木） 13:30～17:00	■グループ演習 ■発表資料の確認（仮）	井上雅彦 氏	伯耆しあわせの郷 （大会議室）
【第7回】	12月24日（火） 10:00～16:30	■実践報告会（実践報告+ポスター発表） ■講義「強度行動障がい理解と支援」	※各受講者発表 井上雅彦 氏	倉吉未来中心 （セミナールーム3）

2 受講対象者 ※次の【1】～【4】の要件を全て満たす者

- 【1】 事業所内で、行動障がい者支援を実践している者（行動障がいがある方の支援経験1年以上）
- 【2】 現に、行動障がいがある方を担当しており、週2回以上直接支援を行っている者
- 【3】 「強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）」を修了、または今年修了見込みの者
- 【4】 7回の連続講座に全て出席できる者

3 申込方法・期限等

別紙のとおり必要事項をご記入後、FAXまたはメールにて **6月26日（水）** 必着でお申し込みください。

4 受講料 ￥2,000円（一度納付された受講料は返還いたしません）

※初日（8/20）、受付にて徴収いたします。お釣りのないようご準備ください。

5 受講にあたって（個人情報の取り扱い等）

- 受講決定者には、提出課題等を送付いたします。7月10日（水）までにお手元に届かない場合は、下記担当までご連絡ください。
- 申し込みに係る個人情報は、本研修に関する連絡・名簿等のみを使用し、名簿は鳥取県が管理します。

6 その他

- 初日の受付時間は、8月20日（火）13:00～ です。余裕を持って、お越しください。
- 研修中、インターネット上（事業所内及び個人の情報端末）で情報交換や情報の共有を行います。
- また事例対象者の動画撮影も予定しています。予め事業所内（関係者等）で、動画撮影についての許可や、上記インターネットの使用等について検討・対応をお願いいたします。

【申し込み、及び研修に関するお問い合わせ】 担当：山根、信原
〒689-0201 鳥取県鳥取市伏野2259-43 社会福祉法人鳥取県厚生事業団
Tel 0857-59-6033 Fax 0857-59-6055 Mail honbu_kikaku3@tottori-kousei.jp

令和元年度

鳥取県強度行動障がい支援者養成研修 （専門研修）

日時：【第1回】令和元年 8月20日（火） ※1
【第2回】令和元年 9月26日（木） ※2
【第3回】令和元年10月 8日（火） ※1
【第4回】令和元年10月29日（火） ※2
【第5回】令和元年11月19日（火） ※1
【第6回】令和元年12月12日（木） ※1
【第7回】令和元年12月24日（火） ※3

会場：※1 伯耆しあわせの郷（大会議室）
※2 伯耆しあわせの郷（大研修室）
※3 倉吉未来中心（セミナールーム3）

定員：20人

講師：本県において、①先駆的に強度行動障がい者支援に従事している者、②地域生活、日常生活にわたっての相談や心理アセスメントなどを実施している者、③自閉症、強度行動障がいなどに関する、専門性をもつ者

【実施機関】社会福祉法人鳥取県厚生事業団

鳥取県強度行動障がい支援者養成研修（専門研修）

1 専門研修とは

平成24年度から鳥取県独自の研修として、①支援現場でのリーダーの養成、②支援ツールの効果的な活用、③PDCAサイクル（実践と振り返り）の理解と習得、を目的として開催しています。参加者は、各自1事例ずつ支援困難事例を持ち寄ります。グループ内で困難事例対象者の評価（対象者の理解、何に困っているのか、等）から、具体的な支援方法の立案、（実践後の）支援結果の評価、支援方法の再検討、を繰り返し行います。研修プログラムを開発した井上雅彦先生（鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座 教授）により、現在、東京都や大阪府、和歌山県などでも同様の研修が開催されています。

2 研修の内容

■ 全7回のプログラム ※6回に変更する場合があります
今年度は、8月に1回、9月1回、10月2回、11月1回、12月2回、計7回のプログラムで開催します。研修内容は、初日（8/20）が講義、最終日（12/24）が一般公開の「実践報告会」の他は、講義+事例検討となります。事例検討では、グループ内で具体的な支援方法の検討、支援結果の振り返り、支援方法の再検討を行います。研修と研修の間は、2～4週間あります。その間、各事業所にて研修で検討した支援方法を実践し、次回研修時に（支援）結果を持ち寄ります（図）。

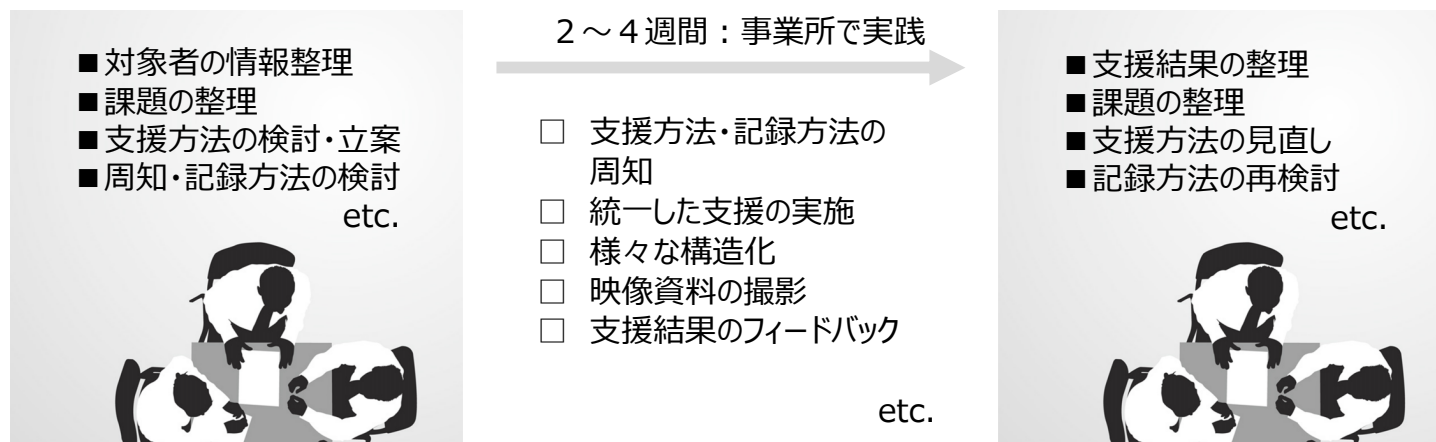
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	+ 実践 報告会
講義（※）	●	●	●	●	●	●	●	
事例検討		●	●	●	●	●		

※ 強度行動障がい者支援、応用行動分析の概論、ICT（情報通信技術）の利用方法、チーム支援の実践のポイント、等

■ グループ内での事例検討

受講者2～3名で、1つのグループをつくります。各グループには「グループリーダー」が1名つきます。事例検討は、このグループで情報を共有し、具体的な支援方法等を検討します。グループリーダーは具体的な助言を行うほか、円滑に事例検討が進むよう、時間管理も行います。またグループリーダーの他に、2グループに1名「マネージャー」を配置しています。マネージャーは、心理アセスメントや、課題解決のための包括的な視点での助言を行います。

【事例検討のイメージ図】



3 過去の実践

平成24年度に研修を開始してから、参加者数（支援困難事例）は120名を超えています。過去の実践例の中から、「実践報告会」で発表された2事例を紹介します。



20代後半
女性
(Aさん)

記録を基にした事前評価： 行動が起きる時間帯と行動の前後の記録から、余暇時間、特に買い物やドライブなど、Aさんが楽しみにしている活動の前後に多いことが分かりました。また、「私に関わって」（注意喚起）、「早く出かけた。また行きたい」（要求）という機能が推測されました。

診断名：重度知的障害・てんかん
障害支援区分：5

Aさんにあった支援の開始： 楽しみな外出の時間は「いつ」なのかを理解しやすいよう、スケジュール（右図）を細かくして伝えました。また出かけるまでの時間「何を」「どうやって」過ごしたらよいかの分かりにくかったので、一人で行うことのできる課題（自立課題）を提供しました。

課題となっていた行動

- 大声、床に座り込む
- 手が腫れるほど壁や床を叩いたり、頭打ちがある

その後のAさん： 楽しみがいつあるのか、それまで何をして過ごしてよいかの分かり、自分を傷つけたり、大きな声を出すことは、大きく減少しました。余暇を楽しんで過ごす姿が見られています。



20代前半
男性
(Bさん)

記録を基にした事前評価： （吐き出し行動は数年間続いていた行動です）行動が起きる時間帯と行動の前後の記録から、特に10:00と15:00の茶話会後に多いことが分かりました。また、茶話会後 ⇒ 玄関を出て ⇒ 決まった側溝に吐き出す、という行動が習慣化していました。吐き出しについては、「感覚的な刺激」「直前の刺激・環境による行動」（自動強化）という機能が推測されました。

診断名：重度知的障害・自閉的傾向・神経症
障害支援区分：5

Bさんにあった支援の開始： これまでの決まった流れから、茶話会後 ⇒ Bさんの好きな感覚遊び ⇒ 感覚遊びが終わったら大好きなチーズを提供（強化子）、という活動・流れを設定し、提供しました。

課題となっていた行動

- 食べたものの吐き出し

その後のBさん： 1日10回程度あった吐き出しが、1週間に2回程度まで減少しました。また吐き出しによる虫歯や歯周病のリスクを大きく回避することにも繋がりました。Bさんにとっても1日の中に楽しみ（興味・関心、好きなこと）が増え、嬉しそうなお姿がうかがえます。

4 参加者、及び参加を希望される事業所へのお願い（①～⑤にご協力ください）

■ 強度行動障がい者支援のスタートラインに立つために
本研修では、具体的な支援方法を立案し、参加者が中心となって事業所内で実際に支援を行っていただきます。そのため、①対象者に関わる職員への支援方法の周知、②統一した支援を行うことで支援の効果が期待されます。また支援方法の効果を測るための、③記録の徹底は不可欠です。

■ 支援ツールの効果的な活用を目指して

本研修では、④クラウドサービスを活用した情報の共有化を試行しています。具体的には、スマートフォンやタブレット、パソコンなどの端末から、ネットワークを経由し、WEB上で記録等の管理を行います。いつでもどこでもデータにアクセスできることで、情報の一元化、チーム全体の進捗状況の管理、ノウハウの共有化などが期待されます。

■ 映像資料による客観的な情報の共有

精神科病院での服薬調整や、外部機関との支援に関する相談、移行先との引継ぎ（移行支援）など、様々な場面で正確な情報が求められます。客観的に、現在・過去の状態を理解するうえで、映像資料はとても有効です。本研修では、⑤対象者の動画（映像）を通じた情報の共有を予定しています。